

インドネシアのイスラム化と政治家
—— 1999, 2004年選出の地方議員プロフィールから ——

見 市 建*

**Islamization and Politicians in Indonesia: An Analysis of the 1999 and 2004
Regional People's Representative Council Elections**

MICHI Ken*

The ruling Golkar party dominated the political scene during the Suharto era, but recently political power has been contested among various parties, including Islamic parties that emerged in the 1999 election. Some analysis of that election is still focused on a dichotomy between secular and Islamic parties, the so-called "aliran" politics of the 1950s. There is also an argument that political elites formed during the Suharto era have persisted even after the "reformasi" in 1998. This article, through an analysis of profiles of members elected to the Regional People's Representative Council (DPRD) in 1999 and 2004, argues that aliran politics has been fading away and that new politicians have been emerging slowly. Although no longer dominant, Golkar has widened its base and absorbed some Islamic votes, while the new Islamic parties attract the relatively higher educated and some business elites. Thus Islamization is not directly related to the emergence of Islamic parties. Old political elites have also maintained their influence within both secular and Islamic parties, and various organizations dating from the Suharto era have been recruiting local elites. The increasing number of swing votes, largely consisting of urban people, is accelerating the shift in political elites.

Keywords: Post-Soeharto Indonesia, Islam, Islamism, Islamization, political elite, political party, general elections

キーワード: スハルト後のインドネシア, イスラム, イスラム主義, イスラム化, 政治エリート, 政党, 総選挙

I は じ め に

スハルト体制下のインドネシアにおいてはゴルカルが得票を独占し、ほとんどの社会団体はゴルカルに取り込まれ、体制に従わない組織は強い圧力を受けた。イスラムを紐帯とした政党にも厳しい制限が加えられ、イスラム活動家はゴルカルを支持するか、野党・開発統一党のなかで介入を受けるか、あるいはシステムの外で非政治的活動ないし地下活動を行うかの選択肢

* 岩手県立大学総合政策学部; Faculty of Policy Studies, Iwate Prefectural University, 152-52 Takizawa-aza-sugo, Takizawa, Iwate 020-0193 Japan
e-mail: kendjoko@bd5.so-net.ne.jp

しかなかった。他方で、インドネシアはこの数十年の間に広範なイスラム化を経験してきた[見市 2004]。政治的イデオロギーとしてのイスラムも浸透した。スハルト体制崩壊後の 1999 年総選挙以降、政党の結成と活動が自由化され、数多くのイスラム系政党が誕生することになった。1999 年選挙の 10 大政党のうち、6 つはイスラム系政党であった。

ではどのような人々が政治家になり、とりわけ 1998 年以降のイスラム系政党やイスラム政治はどのような意味を持っているのだろうか。イスラムを政治的に代表するエリートはどのような教育的、組織的な背景を持ち、それは世俗政党とどのように違うのだろうか。あるいはこれまで世俗的とみなされてきた政党、とりわけゴルカルはどの程度イスラム化の影響を受けているのだろうか。イスラム主義¹⁾の台頭が顕在化した 1998 年以降のインドネシアにおける政党は過去とどのような違いがあるのだろうか。1999 年および 2004 年選挙で選出された地方議員のプロフィールの分析によって、以上の問いに答え、スハルト体制崩壊後のインドネシアにおけるイスラムと政治の関係をどうみるか、その視角を提供するのが本稿の目的である。

本稿には大きく分けて二つの意義がある。まずインドネシア政治研究においては、1998 年の「改革（レフォルマシ）」以降の地方政治家の社会的背景を明らかにすることである。過去二度の選挙分析は多数存在するが、そのほとんどが投票行動や党内政治などを分析対象としており、政治家そのものに焦点を当てたものではない。ロビソンとハディーズは、スハルト体制期に台頭した少数の政治的・経済的有力者たちが、1998 年以降も議会制民主主義に適應しながら権力を維持していると主張している [Robison and Hadiz 2004]。国会議員については森下のプロフィール分析がある [森下 2003; 2007]。本稿はロビソンとハディーズおよび森下の研究に地方議員のデータを加えた上で、果たしてスハルト体制崩壊と「改革」「民主化」によって新たな政治的企業家やムスリムエリートが誕生したのか、あるいはオリガーキーが維持されているのか、維持されているとすればどのような形態なのか、という議論に実証的に答えようとするものである。

第二に、「イスラム世界」における民主化研究およびインドネシアにおけるイスラム政治運動研究における意義である。民主化は発展途上国の政治改革の世界的なアジェンダであるが、とくにイスラム教徒が住民の多数派を占める地域では重要な課題となっている。それは 2001 年 9 月 11 日のアメリカ同時多発テロ事件以降の「テロとの戦い」や中東の「民主化」構想によってより注目を浴びるようになってきているが、イスラム政治運動の研究においてもイスラム主義

1) イスラム主義とは、イスラムを政治的イデオロギーとして採用し、包括的なシャリーア（イスラム法）の適用とイスラム国家の樹立を最終的な目標とする。その実現手段はさまざまであり、武装闘争を行う勢力もあるが、本稿でも示すように大半は宣教活動を続けながら現行の議会制民主主義を通じて権力を掌握することを目指している [見市 2004]。

が議会制民主主義制度に回収されるのか否かが大きな課題となってきた。イスラームをめぐる暴力に警鐘を鳴らす報道やテロや急進的イスラーム主義の諸派に焦点を当てた研究の一方で、²⁾急進的なイスラーム主義は失敗ないし衰退し、比較的穏健な中道派が主流となっているとの見解も示されている [Roy 1994; 2005; 小杉 1996; ケペル 2006]。インドネシアにおけるイスラーム研究の文脈においては、1960年に非合法化されたマシュミ党と1998年以降に顕在化したイスラーム主義との関係を理解することが鍵となる。旧マシュミ党活動家や後継組織から急進的イスラーム主義への展開を概観したファン・ブライネッセンの研究 [van Bruinessen 2002]、政治社会体制におけるイスラームの位置づけの変遷から「宗教的暴力」の形態の変化を説明したサイデルの研究 [Sidel 2006] を踏まえ、本稿はイスラーム政治勢力が政党の枠組みにいかにか回収され、あるいは回収されていないかを分析する。

結論を先に述べれば、第一にインドネシアにおける広範なイスラーム化はイスラーム系政党の躍進には必ずしも結びついていない。ゴルカル党はイスラーム勢力へウィングを広げ、旧マシュミ党系の組織出身者はゴルカル党に多く残存している。スハルト体制下で翼賛の役割を担った諸組織は依然として重要な人材供給源となっている。すなわち、スハルト体制期に形成された諸組織は多党化したあとも維持され、ゴルカル党のみならず新設の各政党の人材供給源となっている。しかしながら、第二に、スハルト体制下の既存政党に比較し、イスラーム系政党を中心とした1998年以降結成の新政党はのきなみ学歴が高く、新たなエリート層出現の萌芽が見られる。「穏健な」イスラーム主義政党である福祉正義党はとりわけ低年齢の高学歴者が多かった。仮にスハルト体制下で台頭した少数の有力者が各党に分散したにしろ、ゴルカルが絶対的な存在でなくなった事実は重要である。第三に、イスラーム系政党においても「国民政党」を掲げる政党が誕生し、よりイデオロギー的なイスラーム主義政党はそのアジェンダを全面に出さない「穏健」で現実的戦略を採っている。他方、議会制民主主義の枠組みに回収されない勢力があり、そうした勢力から武装闘争派のイスラーム主義者が生まれている。第四に、マスメディアの影響を大きく受けた表層的なイメージに基づく投票行動が目立つようになった。1999年に最も世俗的な闘争民主党が躍進し、2004年にイスラーム主義政党の福祉正義党が躍進したように、有権者の宗教的な帰属との関連性の低い浮動票が増えている。

本稿は1999年および2004年選挙で選出された地方議会（州・県ないし市会）議員のプロフィールのうち、1999年選挙の上位7党（闘争民主党PDI-P、ゴルカル党、開発統一党PPP、民族覚醒党PKB、国民信託党PAN、月星党PBB、正義党PK）および2004年に結成された民主主義者党(PD)、福祉正義党(PKS、正義党が名称を変更して再結成)に所属する議員の、性

2) 国際危機グループ (International Crisis Group) のウェブサイトに掲載された一連のレポート、Jamhari [2004], Abuza [2007] などがある。

別, 宗教, 学歴, 組織活動歴を政党別に図表化したデータを分析した。³⁾ 国会議員については森下 [2003; 2007] を参照し, 地方議員との相違を念頭に置きながら分析を進める。

II 世俗政党とイスラム系政党

国民の9割近くがムスリムとして登録されているインドネシアにおいて, イスラム系政党はどのような意味を持つのだろうか。まず, イスラム系政党およびナショナリストないし世俗政党 (以下, 世俗政党と呼ぶ) とは何かを明らかにしておく必要がある。⁴⁾

現代におけるイスラムと政党の関係を明確にするために, ごく簡単にイスラム系政党の歴史を遡っておこう。イスラム教徒はインドネシア国民の圧倒的多数を占めるが, 政治や国家におけるイスラムの役割についての意見は一様ではなく, 独立以前からイスラムおよび世俗の団体や政党が社会を組織化していたために, 建国時からイスラム系政党と世俗政党に分かれていた。1950年代においては, イスラム系政党と世俗政党を区別することは容易であった。イスラム系政党とはマシュミ党,⁵⁾ ナフダトゥル・ウラマー (NU) 党, サレカット・イスラム党などであり, 世俗政党とはインドネシア国民党 (PNI), インドネシア共産党 (PKI), インドネシア社会党 (PSI) などであった。世俗政党および少数のキリスト教系政党は宗教多元的なインドネシアを志向した。他方, イスラム系政党の指導者たちは, 建国当時「ムスリムはイスラム法を

3) 地方議員データは「インドネシアの地方エリートの研究」(2002年度平和中島財団助成国際学術共同研究, 代表白石隆), 「インドネシアの民主化における地方政治の変容」プロジェクト(平成14～16年度科学研究費補助金, 代表水野広祐)の一部として, インドネシア科学院(LIPI)の協力のもと, 選挙委員会(KPU)および地方議会に保存してある議員のプロフィールの提供を依頼した。1999年選出の地方議員総数は全国で約1万5千人, 2004年選出議員は自治体の新設が相次いだためにかかなり増加しているはずである。したがって本稿が使用する1999年のデータ(5,222名)は全体の三分の一に達するが, 2004年(3,311名)は五分の一に満たない。地方議員のプロフィールは氏名, 生地, 生年月日, 住所, 電話番号, 性別, 宗教, 結婚, 配偶者の名前, 子供の数, 政党名, 選挙区, 職業, 教育歴, 組織活動歴, 職歴, 闘争への参加歴(独立闘争, 対共産党闘争など), 地方議会における地位が記載されている。全国統一の書式であるが, 個別データの欠落や記述方法のばらつきが散見される。したがって各データ(例えば男性議員の数)の全体に占める割合を計算するに当たっては欠落したデータ(性別記述のないデータ)を総数から除いた。

4) 以下の記述は部分的に見市[2005]と重複する。

5) マシュミ党は日本軍が軍政への協力を確保するためにムハマディヤとナフダトゥル・ウラマー(NU)を中心として結成した同名の連絡組織(インドネシア・ムスリム協議会の略称)が起源となっている。独立後にイスラム勢力を代表する政党として結成された。1947年にイスラム同盟が, 52年にNUが脱退してそれぞれ独自の政党を設立した。現在のインドネシアでマシュミ党といえば, この52年以降のマシュミ党を指し, 近代主義イスラムを代表する政党とみなされている。スカルノの共産党接近に反発したマシュミ党は西スマトラに樹立された「インドネシア革命共和国政府」に関与, 60年に非合法化された。スハルト体制下ではマシュミ党を継承する政党としてインドネシア・ムスリム党(Parmusi)が設立されたが, ナシール元党首など主要な政治家の参加は許されなかった。マシュミ党の活動と人脈は後述するイスラム統一協会(Persis)やインドネシア・イスラム宣教協会(DDII)などの教育・宣教団体によって継承された。

遵守する」という一文を含む憲法草案であるジャカルタ憲章の採用を主張したが、イスラム国家のビジョンは必ずしも明確ではなかった。イスラム国家樹立を目指す武装闘争であるダクル・イスラム運動⁶⁾にイスラム系政党は加わず、議会制民主主義制度のなかで活動した。1955年選挙において、世俗政党のインドネシア国民党、インドネシア共産党とイスラム系政党のマシュミ党、NU党の得票は拮抗し、それぞれ20%前後を獲得した。ギアツはこのような政治的分裂をサントリ(敬虔なイスラム教徒)とアバンガンないしプリヤイ(名目的なイスラム教徒)という社会潮流(アリラン)に区分して理解した。⁷⁾その後、スハルト体制下における選挙は政治的な介入や強制力が働いた「不自然」なものであったために、インドネシアの政治分析は長い間この1950年代の政治勢力図を基本に理解され、ギアツのアリラン概念に囚われてきた。

1960年代になると政党勢力図は大きく変動した。マシュミ党とインドネシア共産党はそれぞれ60年と65年に非合法化された。イスラム系政党や団体は65年の共産党粛正に加わったが、スハルト政権が成立すると潜在的な反政府勢力とみなされて著しい介入を受けた。1973年にはNU党などイスラム系諸政党が開発統一党(PPP)に統合された。唯一のイスラム系政党は「開発」と「統一」という体制側のイデオロギーをその名称に背負わされ、政党のシンボルマークもカアバ神殿から建国五原則パンチャシラの一つを象徴する五芒星に変更された。旧マシュミ党に参加したイスラム諸団体の多くはゴルカル支持を誓わされ、開発統一党もしばしば介入を受けて内部対立を繰り返した。他方でPNIなど世俗政党やキリスト教系政党はインドネシア民主党(PDI)に統合された。ゴルカルは公務員や青年、婦人諸団体を通じて大政翼賛的な組織化を行い、30年以上にわたるスハルト体制下で独占的な地位を確立した。

スハルト体制はイスラムが一つの政治勢力としてまとまることを防ぎ、またインドネシアが宗教多元的な国民国家であることについての基本的な合意を形成した。⁸⁾しかし社会全体のイ

-
- 6) ダクル・イスラム運動は独立戦争終了後にアチェ、西ジャワ、南スラウェシなどで発生したイスラム国家樹立を目指す武装闘争。同運動の主たる発端は、独立戦争後の中央政府による国軍の編成を目的とした地方ゲリラの武装解除を不満としたものであり、イデオロギー的なイスラム国家樹立運動というよりも、ジャワ人が支配する中央政府に対抗する地方反乱の要素が強かった。60年代初頭には鎮圧されたが、個別のリーダーへの忠誠を誓う残党が小分裂を繰り返しながら地下組織として生き延び、一部はアフガニスタンへ人員を派遣、国際的武装闘争ネットワークであるジャマア・イスラミヤへと発展した。
- 7) ギアツによれば、アリランは単なる政党支持とイデオロギー以上の、集団を形成する社会的形態の混合体である。敬虔なムスリムであるサントリはイスラムの世界観を共有した商人で、他方で名目上のムスリムである農民のアバンガンと貴族のプリヤイはジャワの世界観を共有するとされた。政治的にはプリヤイとアバンガンは連合してサントリと対抗する。1950年代の政党支持においては、サントリがマシュミ党あるいはNU党、アバンガンとプリヤイがPKIあるいはPNI(インドネシア国民党)を支持する。アリランはさらに近代的サントリ=マシュミ党、伝統的サントリ=NU党と、近代/伝統によって分けられる[Geertz 1965]。
- 8) マシュミ党に近かった最大の学生団体HMI(イスラム学生同盟)代表のヌルホリス・マジドは「イスラム Yes, イスラム政党 No!」というスローガンで、イスラムが組織的な政治活動に関わるのは生産的でないとした。NUは1985年に議長に選出されたアブドゥルラフマン・ワヒドを中心ア

スラム化は進行し、またゴルカルはイスラム諸団体を取り込んだために自身も内部からイスラム化していくことになった。イスラム系政党はゴルカルからかつての「イスラム票」を奪還しようとしているが、1999年および2004年選挙においてもゴルカルは多くの地域で上位を占め続けている。⁹⁾

スハルト体制下において、イスラムと他宗教の並存を前提とした国民国家形成は一定の成果を挙げたといえるだろう。1998年以降に設立されたイスラム系政党においても、NUとムハマディヤという二大イスラム教育社会団体を基盤とする民族覚醒党と国民信託党は「国民党」を掲げ、いずれも党の基本原則をイスラムではなくパンチャシラと定めた。イスラム系政党であっても、インドネシアのイスラム国家化は完全に否定し、宗教多元的な国民の統一を積極的に肯定するようになった。しかしながら両党ともに母体となるイスラム教育社会団体のメンバーやその支持者からの得票に大きく依存している。これが本稿が「イスラム政党」ではなく、「イスラム系政党」と呼ぶゆえである。

他方、インドネシアにおける社会のイスラム化は着実に進展し、とりわけスハルト体制下においてはイスラムの宗教施設や教育機関の拡充、イスラム法の整備、イスラム金融の導入など多岐にわたる制度の充実が図られた。政治的イデオロギーとしてのイスラムも大学キャンパスや一部の寄宿学校（プサントレン）で浸透した。スハルト体制が倒れると、宣教によって社会のイスラム化を促進し、漸進的にイスラム国家化を目指す「穏健な」イスラム主義政党である正義党（2004年以降福祉正義党）や月星党が結成された。開発統一党もイスラムを政党の基本原則に、シンボルマークをカアバ神殿に戻した。月星党は1950年代のマシュミ党の継承を目指しておりイスラム法適用の目標を党綱領に掲げているが、開発統一党はNUと旧マシュミ党の混成のままで、イデオロギー的一貫性に欠く傾向がある。

ここで改めてイスラム系政党を定義し直せば、それは「イスラム諸団体を主たる支持基盤とし、あるいはイスラムを政治的イデオロギーとして採用する政党」である。¹⁰⁾ 世俗政党として

に、国民国家インドネシアの正当性を主張する議論を展開した。現体制の正統性はオランダ植民地時代に決議した解釈を援用した。すなわち花嫁の父親がいない場合にたてる代理人（ワリ）に見立て、イスラム共同体を代表していなくともその代理としての政府を認めるとの判断である。NUの国家観とそのイスラム法学的背景については以下を参照 [Haidar 1994: 239-297]。

9) スハルト体制下においてゴルカルは特にジャワ島外で圧倒的な強さを見せた。スマトラ島の各州においては、55年選挙においてマシュミ党が39～53%を獲得していずれも第一党であったが、スハルト体制最初の71年選挙でゴルカルが8州のうち5州で70%以上の得票であった。

10) この二つの定義は筆者特有のものではなく、マスメディアにも多く見られる表現である。ただし通常、党の基本原則をイスラムと規定している政党とパンチャシラと規定している政党は区別される。例えば『サビリ』誌では「開発統一党、福祉正義党、月星党のようなイスラム政党 (Partai-partai Islam) と民族覚醒党と国民信託党のようなイスラーム大衆を基盤とした政党 (partai berbasis massa Islam)」と表現されている [Sabili, 2004. 07. 16]。イスラム主義色の濃い『サビリ』誌にとっては、特に党原則をイスラムと規定しているかどうかは極めて重要なメルクマールである。民族覚醒党と国民信託党の「イスラム性」についての当事者からの説明は例えば以下の『イスラ』

はゴルカル党¹¹⁾ インドネシア民主党を継承するインドネシア闘争民主党、2004年にスシロ・バンバン・ユドヨノを大統領に推すために結成された民主主義者党などがある。1999年選挙後には民族覚醒党を除く主要イスラム系政党によって「中道軸」(Poros Tengah)が形成され、国会で共同歩調を取った。民族覚醒党は設立者のアブドゥルラフマン・ワヒドがイスラムを単位とする政治勢力の結成に強く反対しており、この立場は少なからぬ民族覚醒党およびNUの幹部や活動家にも共有されている。したがって民族覚醒党はしばしば他のイスラム系政党とは異なる立場を取る。かつてのアリランに似せて「中道軸」をイスラム近代主義(近代派サントリ)、民族覚醒党をイスラム伝統主義とみなす見解もあるが、スハルト体制下で設立された開発統一党を近代主義イスラムとみなすのは不正確である。また地方首長選挙をめぐる中央と地方の「ねじれ現象」が常態化している。すなわち中央における政党間関係に関係なく、地方議会の勢力関係によって選挙協力が行われている。ではイスラム系政党をどう理解すればいいのか、議員データの分析を踏まえて最後に再検討することにする。

それでは1999年と2004年に選出された議員データを用いて、ゴルカル党など「世俗政党のイスラム化」やイスラム系政党の変質を裏付けてみよう。

III 地方議員データの全体像

まず、イスラム化に比較的關係の薄いと思われるデータを中心に、地方議員プロフィールの全体像を示しておく。性別においては、男性が独占的(1999年94.5%, 2004年91.9%)であり、国会議員(1999年91.3%, 2004年89.2%)よりさらにその傾向が強いが、女性の割合が上昇傾向にある。2004年選挙では3割以上の女性候補擁立が義務づけられたのが主因であろう。政党別では2004年には民主主義者党(13.2%), ゴルカル党(10.2%)が女性の割合が高く、三番目の民族覚醒党(9.3%)も女性が4.2%増えている。逆に1999年にゴルカルに次いで女性の比率が高かった闘争民主党が減らしている。

年齢においては国会議員の中央値が1999年51.3歳から2004年50.4歳と若くなっているのに対して¹²⁾ 地方議員の中央値は1999年選出で44.9歳、2004年には42.4歳とさらに低年齢層化が進んでいる。学生のイスラム運動から発展した福祉正義党の地方議員は国会議員と同様に突出して若い。2004年には2.7歳上がって35.9歳となった。最高齢のゴルカル党は逆に2.4歳若くなり48.8歳となった(国会議員では逆に中央値49.7歳から52.2歳に上昇した)。新興の民主主義者党は39.9歳で福祉正義党に次いで若かった。

ラム政党(Partai Islam)を選ぶ』に収録された諸論考を参照[Hassan 1998]。

11) 1999年選挙に際し、ゴルカルはゴルカル党に改名した。

12) 国会議員の中央値は森下明子氏のデータ[森下2003; 2007]を提供していただき筆者が計算した。

学歴においては、1999年、2004年を通して最も大卒の割合が少ないのが闘争民主党であり、続く開発統一党、ゴルカル党も30%台に留まり、スハルト政権から継続する三政党が最も低かった。逆に都市部のムスリムを票田とする国民信託党と福祉正義党が最も高い。国会議員においては正義党、月星党、国民信託党において学者の割合が高いが、地方においても学歴の高い人々が政治家になっている。国立イスラム大学（IAIN）卒業者は、NUを基盤とする民族覚醒党および開発統一党が最も多かったが、民主主義者党を除く各政党に広く分布している。なお中央では民族覚醒党の大学出身者割合は最低であったが、地方では他党並であり、IAIN出身者を含めれば福祉正義党や国民信託党に迫る。学歴は政治エリート分析のために非常に重要な要素であり、あとで再論することにする。

地方議員の組織所属を概観すると、スハルト体制下においてゴルカルの集票マシンとして機能した社会組織、経済関係の組織、イスラム組織に大別することができる。社会組織、経済組織所属においてはゴルカル党議員が占める割合が大きく、スハルト体制から継続して地方における権益をゴルカル党が握っていることを想起させる。ただ、組織によっては分散も見られる。ゴルカルの配下にあったAMPI（インドネシア改革青年団）やKosgoro（ゴトンロヨン多目的編成部隊）の活動経験者は依然として圧倒的にゴルカル所属であるのに対して、直接ゴルカルの配下になかったKNPI（インドネシア全国青年委員会）、カラン・タルナ（地域青年団）の政党所属は比較的分散している。国民信託党には経済団体の活動歴がある議員が多い。新興の民主主義者党はカラン・タルナ活動歴のある議員が12人（13.0%）いるのが目立つが、AMPI、KNPI、パンチャシラ青年団所属が3人ずつのみと特徴を掴みにくい。

IV イスラム教徒議員の増加

われわれが入手できた2004年選出の地方議員のデータのうち、もっとも顕著な特徴はイスラム教徒の大幅な増加である。1999年選挙では議員のうちイスラム教徒の割合は地方議員（79.0%）の方が国会議員（81.3%）より若干低い大きな差はなかった。ところが2004年選出の地方議員のうち、イスラム教徒は88.1%と大幅に上昇している（国会では83.7%と微増）。もっとも本稿が使用した1999年のデータではヒンドゥー教徒が多いバリ州のサンプルが過剰に代表しており、したがって2004年選出の地方議員におけるイスラム教徒の割合の上昇は割り引いて考える必要がある。しかし仮にヒンドゥー教徒の数を抜いてもイスラム教徒の割合が5%程度伸び、キリスト教徒は5%減っていることは間違いない。

2000年の国勢調査によればイスラム教徒の割合は87%であり、むしろ1999年の選挙結果ではイスラム教徒の代表性が過少であったといえる。もっとも世俗政党の存在から分かるように、すべての有権者が宗教に基づいて投票するわけではない。2003年のLSI（インドネシア世

論調査機構)の調査によれば、「敬虔な」イスラム教徒は有権者の約半分(49.8%)で、さらにそのうち半数近くの48.6%が世俗政党を支持している [LSI 2003]。¹³⁾ 徐々にイスラム化が進行してきたインドネシアにおいて、1950年代の社会分裂がそのまま維持され、その分裂が政党支持に結びついているというアラン分析の前提はすでに崩れている。

イスラム教徒の割合は闘争民主党では62.4%から76.7%、ゴルカルでは83.0%から90.2%に上昇している。バリ州の割合を考慮してもやはりイスラム教徒議員の割合が増えている。ユドヨノ現大統領の支持母体として2004年選挙前に結成された民主主義者党は77.3%で、わずかに闘争民主党を上回った。さらにイスラム教徒の割合を押し上げた大きな要因として西ジャワやスマトラを中心とした福祉正義党の躍進が挙げられる。地方議員データに占める福祉正義党議員の割合は1999年の5倍以上の5.3%になっている。

半減したキリスト教徒議員に目を移すと、ゴルカル党ではプロテスタントの議員が減っているが、全キリスト教徒議員におけるゴルカル党の割合は25.7%から23.9%とさほど変わらない。闘争民主党の割合は42.1%から28.7%まで減っている。大勝した1999年選挙以降、闘争民主党は国政での連立政権への埋没、地方議員の汚職、党員の廃退行為などによって、全国的に大きく評判を落とした [本名 2005]。2004年選挙においてはプロテスタント主体のキリスト教系政党の福祉平和党(PDS)が結成され、民主主義者党も八大政党では最もキリスト教徒議員が多かった。闘争民主党におけるキリスト教徒議員減少の明確な理由は定かではないが、キリスト教徒議員の受け皿となる新たな政党が結成されたことで、キリスト教徒の地方有力者たちが大きく評判を落とした闘争民主党を選ぶインセンティブは著しく低下したといえるだろう。

イスラム団体を主たる組織的な基盤としながら、「国民政党」を掲げている民族覚醒党と国民信託党においては少数ながら非イスラム教徒の地方議員が誕生した。キリスト教系の福祉平和党からもイスラム教徒議員が当選した。¹⁴⁾

V 流動化するイスラム組織と政党の関係

二大イスラム教育社会団体であるNUないしムハマディヤにおける組織活動経験がある議員は民族覚醒党と国民信託党以外にも各党に存在している。スハルト体制下から継続してゴルカルに留まるものがおり、わずかだが闘争民主党で議員に選出されたものもある。2004年選出地方議員においてもっとも特徴的なのはNUとムハマディヤ出身の議員が、とりわけ関係の深

13) イスラム教徒を形式的に敬虔/非敬虔と分けることには大きな問題をはらんでおり、この調査結果は極めて慎重に扱うべきである。LSIの調査内容とその分析については見市 [2005] を参照。

14) 入手できた福祉平和党の地方議員29名(宗教記述がない3名を除く)の内訳はプロテスタント教徒26名、イスラム教徒2名、カトリック教徒1名だった。

いはずの民族覚醒党、国民信託党、開発統一党でそれぞれ大きく数を減らしていることである。

民族覚醒党における NU 活動歴のある地方議員は 1999 年選出に比べて 15.2% 減り、開発統一党においても 12.8% 減少している。NU は現職の幹部が議員を兼職することを禁じており、また民族覚醒党設立者のアブドゥルラフマン・ワヒドと NU 議長のハシム・ムザディの確執が影響していると思われる。東ジャワ州シトゥボンド県では 2004 年選挙を前に、NU のキアイ（宗教指導者）が民族覚醒党執行部との対立から開発統一党に鞍替えし、10 万票が開発統一党に流れるという出来事があった。¹⁵⁾ しかし全国レベルでは開発統一党においても NU 活動歴のある議員の割合は同様に減っているため、「NU 離れ」は共通の特徴といえよう。¹⁶⁾

ムハマディヤ活動歴のある国民信託党議員も半減している。2004 年選挙では国民信託党やムハマディヤのメンバーと、ムハマディヤ・メンバーを取り込もうとする福祉正義党との対立が見られた。国民信託党と福祉正義党はともに都市部の比較的裕福な有権者が主な支持層であるとされており、議員も若く高学歴者が多い。国会では「中道軸」の中核として一時は共同会派を形成していた。共通点が多いだけに票の奪い合いとなり、著者が行った聞き取り調査では、2004 年選挙においてジョグジャカルタやスラバヤなどで国民信託党と福祉正義党の間で最も激しい（多くの場合匿名の）ネガティブ・キャンペーンが繰り広げられた。ムハマディヤ発祥の地ジョグジャカルタにおいては、2004 年から 2005 年頃に国民信託党寄りのムハマディヤ機関誌「スアラ・ムハマディヤ」が福祉正義党批判を繰り返した。2006 年にはムハマディヤ中央執行部が正式に福祉正義党幹部との兼任を禁止した。福祉正義党は 2004 年に地方議員の数が大きく増えているので、ムハマディヤ活動経験者の割合は減っているのだが、その絶対数は確実に増えている。国会議員においては大きな変動は見られず、この対立は地方においてより深刻である。¹⁷⁾ 2004 年選挙後に元ムハマディヤ議長のアミン・ライスが国民信託党党首を辞任したことで、ムハマディヤ・メンバーの国民信託党離れがさらに進むかもしれない。NU とムハマディヤという宗教団体と政党との分離傾向は中長期的には不可逆な流れであろう。

もっとも民族覚醒党と国民信託党という二つのイスラム系政党が「国民政党」化したとみなすのは時期尚早である。世論調査によれば、国民の 35% が NU に、7% がムハマディヤに帰属意識を持っており、組織的活動に従事しなくとも、両団体が体現する宗教伝統や文化を紐帯とした共同体意識が形成されている。¹⁸⁾ 民族覚醒党と国民信託党はシンボルマークとしてそれぞれ

15) シトゥボンド県において、民族覚醒党は 1999 年選挙の 27 万票から 2004 年には 17 万票に減らし、開発統一党はたった 3000 票から 10 万票へと増加した。
16) 開発統一党から分離した改革の星党（PBR）所属の 86 人の議員においても、NU 活動経験者 4 人、ムハマディヤ 1 人と少ない。
17) 国会議員では 1999 年から 2004 年にかけて、ムハマディヤ活動歴のある国民信託党議員は 18 人から 19 人へと一人増加、福祉正義党は 0 人から 1 人へと増加しただけである [森下 2007]。
18) NU の宗教伝統と共同体意識については見市 [2004] 第三章を参照。

れ NU とムハマディヤのそれによく似たものを採用しており、依然として両宗教団体に帰属意識を持つ有権者の支持に依存している。

イスラム系学生団体では、HMI（イスラム学生同盟）が最も多く議員を輩出しており、地方議員では 128 人から 177 人と増加している（全体のサンプル数は減っているため HMI 出身議員の割合は倍以上に増加）。¹⁹⁾ HMI は元々マシュミ党系の学生団体であったが、スハルト体制下ではゴルカルの人材供給源になっていた。2 度の選挙を経て、中央地方いずれにおいても HMI 出身者が最も多いのはゴルカル党である。地方議員においては、ゴルカル党における HMI 出身者の割合が 3.1% から 6.2% へと倍増している。イスラム系各党でも増えており、なかでも開発統一党で 5.9% から 10.1%、月星党で 16.7% から 22.5%、議員の絶対数が大きく増えた福祉正義党における割合も拡大した。HMI はサロンの要素が強く、1998 年以降とりわけ大都市の大学でイスラム主義のイデオロギーに基づく KAMMI（インドネシア学生行動連盟）に押され気味であるが、エリートの人材供給源として強いネットワークを維持していることが明らかになった。²⁰⁾ 1990 年に政権の肝いりで設立された ICMI（インドネシア・ムスリム知識人協会）出身議員も幅広く分散しているが、地方では 18 人（2004 年）と限られた人数であり、地方への浸透は限定的である。

地方議員においては ICMI よりも歴史の古い、いずれも 1970 年代に政府ないしゴルカルのイニシアティブで設立された MUI（インドネシア・ウラマー協会）、DMI（インドネシア・モスク協会）、元々マシュミ系の BKPRMI（インドネシア・モスク協会）の活動歴のある議員の数が多く、とりわけ DMI と BKPRMI に所属していた地方議員は 2004 年に倍増している（2004 年のサンプル数が少ないので議員に占める割合はさらに増加している）。²¹⁾

HMI と同じく旧マシュミ党に近く、1985 年にパンチャシラを組織の唯一原則として採用することを拒否して解散させられた PII（インドネシア・イスラム生徒会）²²⁾ 出身者は 2004 年の地方議員のうち 47 人で、ICMI や MUI などより多い。興味深いことに、PII 活動歴のある議員

19) 中央では HMI 出身議員が減少しており、森下 [2007] はゴルカル党内の派閥争いが原因であると推測している。少なくともこの傾向は地方議員には当てはまらないようである。

20) 福祉正義党に近い KAMMI 出身者はわずか 6 人（1999 年 1 人）しか地方議員になっていないが、KAMMI の結成は 1998 年であるので、今後増えていこう。KAMMI はスハルト大統領辞任 2 カ月前の 1998 年 3 月に結成され、福祉正義党の前身である正義党の結党には KAMMI 議長ファフリ・ハムザも参加している。しかし両者はあくまで別組織として存在している。後述するように福祉正義党は党勢拡大とともにとりわけ立候補者のリクルートの幅を広げており、逆に KAMMI 出身者が福祉正義党以外の党の候補者になることも増えるかもしれない。

21) BKPRMI は旧マシュミ党の活動家たちが設立、コーラン詠唱大会やイスラム幼稚園など宣教活動を基盤とした組織であるが、スハルト体制後期にゴルカル傘下の DMI の活動に組み込まれた [Porter 2002]。

22) 1985 年に公布された政治 5 法で各政党および大衆団体の規約に建国五原則パンチャシラを組織の唯一原則として盛り込むことが法律で定められた。NU とムハマディヤはいち早くこれを受け入れたが、PII は拒否、HMI は分裂して反対派は HMI-MPO を結成した。

はイスラム系政党で軒並み減っているのに対して、ゴルカルでは微増している。

マシュミ党首ナシールが設立し、スハルト体制下で活動を続けた DDII (インドネシア・イスラム宣教協会)、Persis (イスラム統一協会) はそれぞれわずか数名しか地方議員になっておらず、宗教活動の活発さに比較して政治的な代表性が極めて低い。1955 年選挙では 20.9% を得票していたマシュミ党の継承を目指した月星党が伸び悩んでいる (1999 年得票率 1.9%, 2004 年 2.6%) 理由の一つは、旧マシュミ党関係の組織が一方ではゴルカルに吸収され、他方では政治的に代表されていないことにある。DDII は同系統の別組織 KISDI (世界ムスリム連合のためのインドネシア委員会) とともにスハルト体制末期に「民主化勢力潰し」のために当局に動員された。²³⁾ KISDI の代表アフマド・スマルゴノは月星党に加わったが、ユスリル・マヘンドラ党首 (ユドヨノ政権の官房長官) と対立した。イスラム法適用を求める月星党は対外的には「急進的イスラム勢力」と見られがちだが、実際には大統領選挙においていち早くユドヨノ支持を打ち出し、政権の安定化に貢献している。

1967 年に設立された DDII は、1980 年代にはサウジアラビアなどから宣教目的に流入した資金の窓口となっていた。DDII は多数のモスクや学校建設の他、バンドゥン工科大学のサルマン・モスクにおける宣教運動を始め、福祉正義党の基盤となった大学キャンパスの宗教運動の活動資金を提供した。²⁴⁾ 国際的なイスラム主義武装闘争派のネットワークに発展したジャマア・イスラミヤの拠点であった中ジャワ州ソロ郊外のイスラム学校「ポンドック・ングルキ」も、DDII が資金提供していたラジオ番組が端緒となっており、創始者のアブドゥラ・スンカルとアブ・バカル・バアシルらも旧マシュミ党系の組織に属していた [Sidel 2006: 204-206]。ングルキのハディース教育のモデルとなったのは東ジャワ州バンギルにある Persis のイスラム学校である。DDII の下部機関にはチャリティー基金 Kompak (危機管理委員会) があり、ボンヤアンボンの紛争においてムスリム住民向けに薬品や衣料品を提供してきたが、Kompak メンバーのなかには武器を入手してキリスト教徒住民への攻撃に従事しているものも存在する。Kompak 南スラウェシ代表のアグス・ドゥイカルナはマニラで爆弾所持の容疑で逮捕され現在までフィリピン政府に拘束されている。²⁵⁾ 以上のように、旧マシュミ党の潮流はスハルト体制下において国際的なイスラム主義の影響を強く受け、その主流は中道的な福祉正義党へと継承されたが、一部は議会制民主主義体制には回収されず、ダルル・イスラム運動諸派などと結

23) この過程については以下を参照 [Hefner 2000; Sidel 2006]。

24) サルマン・モスクの指導者イマドゥディン・アブドゥル・ラヒムへのインタビュー (2004 年 10 月 18 日)。なお、サルマン・モスクから福祉正義党への発展については以下の拙著第二章を参照 [見市 2004]。

25) アグス・ドゥイカルナと共にフィリピン政府に一時拘束されたタムシル・リンレンは Kompak ジャカルタ本部の代表で、国民信託党の出納長であった。2004 年選挙で福祉正義党に移籍、南スラウェシ州から国会議員に選出された。

びついて急進的なネットワークの核となった。

福祉正義党は旧マシュミ党の宗教的潮流を継承しているが、党員や政治家となっているのは都市化や高学歴化によって新たに大学キャンパスで宣教運動に関わった人々であり、議員データからは旧マシュミ党との直接のつながりは見えてこない。議員データから判るのは、2004年選挙の躍進によってイスラム諸団体から幅広く人材を集めていることであり、別表に挙げたすべてのイスラム団体から議員を出している。福祉正義党は階層的な党組織を持っており、幹部党員になるためには一定の党活動と宗教的知識の保持と義務の履行、イスラム政治についての理解が問われる。したがって党歴の浅い軍人や芸能人が党幹部に迎え入れられることはない。しかし2004年選挙では党勢拡大のために非党員を候補に立て、²⁶⁾ 1999年にはほとんどいなかった50歳以上の議員も生まれた。他方、スハルト体制下から継続する社会団体や経済団体の活動歴のある議員は、他のイスラム系政党と比較しても非常に少ない。大学の宣教運動から新たなムスリム・エリートが生まれていると見なすことができるとともに、福祉正義党の権力基盤の脆弱性を示唆している。

VI オリガーキーの維持と変化の兆し

地方議員データから明らかになった「改革」後のインドネシア政治家の特徴とはどのようなものであろうか。スカルノ体制下、スハルト体制下の政党の構成からいかに変化あるいは変化しなかったのであろうか。

2004年地方議会選挙における顕著な特徴は一方ではイスラム教徒の増加であり、他方ではイスラム組織の政党離れであった。イスラム教徒の増加は闘争民主党の凋落と福祉正義党の躍進が主因であり、急速なイスラム化と判断するのは早計に過ぎるだろう。政党のイスラム組織離れ、とりわけNUとムハマディアという二大イスラム団体の活動歴のある議員が減っている現象はより長期的な趨勢であると考えられる。

1950年代にはとりわけジャワでより明確だった社会的潮流（アリラン）が1965年の共産党粛清、スハルト体制下におけるイスラム組織化の抑制、新たな政治経済体制の確立、都市化や教育制度の発展を通して徐々に崩れている。1999年選挙における闘争民主党、2004年の福祉正義党、さらにスシロ・バンバン・ユドヨノの大統領当選に象徴されるように、イメージに左右

26) 南カリマンタン州では公立学校の教師やボーイスカウトの指導者を候補にした。また当選の見込みが薄い名簿順位に非党員の候補者を立てる戦略を採った。南カリマンタン州では預言者ムハンマドの子孫として尊敬されるアラブ系のサイイドを、中ジャワ州ソロ市ではボンドック・ングルキの同窓会長アリ・ウスマンをそうした候補として担いで、彼らの支持者の票を獲得した。南カリマンタン州については見市〔2005〕を参照。

された投票行動が目立つようになっている。他方、教育や宣教を目的とするイスラム諸団体も政党に左右されることを好まず、組織を防衛する姿勢が見られる。NUは組織幹部が議員と兼任することを禁止、ムハマディヤもとりわけ福祉正義党の介入を拒否している。旧マシュミ党に近いイスラム組織も政党への参加は消極的であり、月星党は伸び悩んでいる。

スハルト体制下で形成された諸団体はゴルカル党を中心に地方議員候補のリクルートとネットワークに寄与している。なかでも直接ゴルカルの傘下になかったKNPI（インドネシア全国青年委員会）、カラン・タルナ（地域青年団）は各党に分布している。イスラム組織のなかでは体制寄りだった学生団体のHMI出身者が最も幅広く分布しており、2004年選挙でさらにその数を増やしている。政党の編成が変わっても、スハルト体制下で台頭した有力者たちが権力を維持しているというロビソンとハディーズの主張は、少なくとも現時点では、成り立つ。とりわけかつてマシュミ党が強かった地域で党勢を維持しているゴルカル党は、HMI、NU、ムハマディヤ以外にも、ICMI、DMI/BKPRMI、PIIなどのイスラム組織の活動歴がある政治家を抱えており、その数はイスラム系政党に引けをとらない。ゴルカルはスハルト体制下におけるイスラム化に伴ってウイングを広げ、その基盤は1999年以降も維持されていることが明らかになった。

ただしゴルカルが絶対的存在でなくなったことは重要である。2004年選挙でゴルカル党が大きく後退し、イスラム系政党が躍進した地域も少なくない。地方エリートが機会主義的に他政党に分かれて競争し、有権者が有力者の動向やメディアが形成するイメージに影響されてイスラム系政党が地滑り的な勝利を収めたケースもある〔岡本2005; 見市2005〕。全国規模で起こった1999年の闘争民主党ブームや2004年のユドヨノ＝民主主義者党、福祉正義党ブームに匹敵するような、投票行動の流動化が地方レベルにおいても起こっている。

新たな政治家の萌芽もデータから読み取ることができる。新興のイスラム系政党である国民信託党や福祉正義党の方が既成三政党より学歴が高く、福祉正義党にはスハルト体制下から存続する社会・経済団体の出身者が非常に少ない。国民信託党においては商工会議所など経済団体の所属者が少なくないが、スハルト体制下で形成されたエリート層が民主化後も地方議員になっているとしても、政党によってその構成は異なり、そうした政党間の競争があること自体がインドネシアの政治のあり方を大きく変化させている。また2004年選出の地方議員が数多く所属していた学生団体HMIはジャカルタやバンドゥン、ジョグジャカルタなど大都市の主要大学で福祉正義党に近いKAMMIに取って代わられている。スハルト体制に近かった諸団体が今後も人材供給源として継続できるかどうかは今後も検討の余地があるだろう。

結びにかえて——「改革」後インドネシアにおけるイスラムと政治

1999年および2004年選出の地方議員のプロフィールを分析した上で、スハルト体制崩壊後「民主化」された政治体制におけるイスラムの位置づけをどのように捉えればよいのだろうか、次の三つの視角を指摘することができる。

(1) 教育の平準化と近代的価値観の浸透

かつてギアツのいうプリアイ（旧貴族）、近代的サントリ（敬虔なイスラム教徒）、伝統的サントリのエリートはそれぞれ植民地官吏養成の近代学校、近代的イスラム学校、伝統的イスラム教育（プサントレン）という異なる教育システムによって形成、維持されてきた。しかし教育システムが平準化されることによってエリート間の差異は小さくなった。プサントレンは寄宿制の「宗教塾」から近代的教育（一般科目や学年制など）を導入した学校へと次第に変質し、国立イスラム学院（IAIN）の拡充によって、「伝統的サントリ」たるNUの指導者たちは一般大学とそれほど変わらない高等教育を享受するようになった。かつてプリアイの牙城であった大学キャンパスではイスラムの宣教運動が活発に行われるようになった。都市化が進行し、キリスト教徒を含め、地方都市でも富裕層の教育的背景や生活スタイルは類似したものになった。かつての「近代的サントリ」と「伝統的サントリ」を代表するムハマディヤとNUの指導者たちによってイスラム共同体の利益よりも国民統合を前面に掲げた政党が設立されたのにはこうした社会的背景があったといえよう。

(2) 旧マシュミ党の分散とゴルカルのイスラム化

スハルト体制下において地方経済は大統領を頂点とする中央の政治指導者に大きく依存し、とくに経済的リソースが限られている外島ではその傾向が強かった。1950年代にスマトラ島などで強力な地盤を持っていたマシュミ党は1960年の非合法化後復活を許されず、地方指導者はゴルカルを中心とした政治経済体制に組み込まれていった。他方で政府やゴルカルのイニシアティブによって公的なイスラム関連行事が執り行われ、教育や宣教機関が設立された。旧マシュミ党を支持していた地方基盤のイスラム教育団体²⁷⁾やマシュミ党の後継団体がこうした活動や組織に動員された。1999年以降、かつてのマシュミ党支持者はゴルカル党や開発統一党に留まるもの、月星党やその他のイスラム系政党に転ずるなど分散した。

27) 例えば南スラウェシ州のイスラム宣教協会（Dewan Dakwah Islamiyah）や西ヌサトゥンガラ州のナフダトゥル・ワタン（Nahdlatul Wathan）など。後者は1990年代末に後継者争いで分裂し、2004年選挙では月星党とゴルカル党を支持した。

(3) イスラム主義の浸透と制度への回収

1970年代末ごろからイスラム主義の政治イデオロギーが大学キャンパスなどに浸透した。それは中東や南アジアでも社会改革思想の主流が左翼思想からイスラム主義へ転じた時期であり、インドネシアでは学生の政治運動が弾圧された時期でもあった。エジプトのムスリム同胞団の指導者を中心とした、イスラムに基づく社会・政治変革を訴える論考が多数翻訳、出版された。マシュミ党の後継組織 DDII はイスラム主義の宣教運動へ中東からの資金を流した。旧マシュミ党系組織は政治的代表性が低いが、イスラム主義の潮流は拡大した。マシュミ党と直接の関係がない福祉正義党がその典型である。福祉正義党議員の多くは比較的若年齢の大学卒業生であり、前述した都市のライフスタイルや価値観に親しんでいる。福祉正義党は議会制民主主義と国民国家の枠組みのなかで漸進的なイスラム化を目指す「宣教政党」であり、あからさまにイスラム化の主張はせず、汚職廃絶など都市中間層が受け入れやすい政策を提示している。現行制度に回収されない武装闘争派の地下組織であるジャマア・イスラミヤも旧マシュミ党の系譜であるが少数派である。その他、「イスラム急進派」や「過激派」と評される在野の諸集団が存在するが、これらの多くはいわば「議会外の制度」に回収されている。すなわち、スハルト体制末期に動員された自警団 (Pam Swakarsa) や民兵 (前述のように DDII はその一部を形成した) はイスラム擁護戦線 (FPI) などの組織に継承され、軍や警察との関係を維持している。マルク諸島における紛争に動員されたラスカル・ジハード (2001年解散) も厳格な教義で知られるワッハブ主義の民兵組織であったが国軍との密接な関係があった [Hasan 2002]。インドネシアにおいては国家が暴力装置を独占できておらず、各政党も自警団組織を保持している。治安当局はこれら組織との関係を維持することによって、大半の場合、在野の暴力装置の行動を予測範囲内に留めており、イスラム主義組織の多くもその例外ではない。

参 考 文 献

日本語

- 本名 純. 2005. 「メガワティと闘争民主党的敗北——党内政治・地方政治・選挙政治で何が起こっていたのか」『インドネシア総選挙と新政権の始動』松井和久; 川村晃 (編), 102-144 ページ所収. 明石書店.
- ケベル, ジル. 2006. 『ジハード——イスラム主義の発展と衰退』丸岡高弘 (訳). 産業図書.
- 小杉 泰. 1996. 「スンナ派中道潮流の理念と戦略——新たなる世界像をめざして」『イスラム世界に何がおきているか——現代世界とイスラム復興』小杉泰 (編), 285-305 ページ所収. 平凡社.
- 見市 建. 2004. 『インドネシア イスラム主義のゆくえ』平凡社.
- . 2005. 「『イスラム票』はどう動いたか——南カリマンタン州における福祉正義党の躍進から」『インドネシア総選挙と新政権の始動』松井和久; 川村晃一 (編), 176-201 ページ所収. 明石書店.
- 森下明子. 2003. 「スハルト体制崩壊後のインドネシア政治エリート——1999年総選挙による国会議員とはどのような人たちか」『東南アジア研究』41(3): 361-385.
- . 2007. 「ポスト・スハルト時代のインドネシア国会議員——2004年総選挙後の変化と連続性」『東南アジア研究』45(1): 57-97.
- 岡本正明. 2005. 「5年おくれの『改革』——2004年インドネシア・南スラウェシ州におけるゴルカル党の

凋落』『アジア研究』51(2): 63-83.

英語・インドネシア語

- Abuza, Zachary. 2007. *Political Islam and Violence in Indonesia*. London: Routledge.
- Van Bruinessen, Martin. 2002. Genealogies of Islamic Radicalism in Post-Suharto Indonesia. *Southeast Asia Research* 10(2): 117-154.
- Geertz, Clifford. 1965. *The Social History of an Indonesian Town*. Cambridge, Massachusetts: M. I. T. Press.
- Haidar, M. Ali. 1994. *Nahdatul Ulama dan Islam di Indonesia*. Jakarta: Gramedia.
- Hasan, Noorhaidi. 2002. Faith and Politics: The Rise of the Laskar Jihad in the Era of Transition in Indonesia. *Indonesia* 73: 145-170.
- Hassan, Sahar L.; Kuat Sukardiyono; and Dadi M. H. Basri, eds. 1998. *Memilih Partai Islam: Visi, Misi, dan Persepsi*. Jakarta: Gema Insani Press.
- Hefner, Robert W. 2000. *Civil Islam: Muslims and Democratization in Indonesia*. Princeton: Princeton University Press.
- Jamhari, Jajang Jahroni, ed. 2004. *Gerakan Salafi Radikal di Indonesia*. Jakarta: Rajawali Pers.
- Lembaga Survey Indonesia (LSI). 2003. *The Behavior of Muslim Voters: The Issues of the Presidency, Parties, and Democracy*. Jakarta, November 2003.
- Porter, Donald J. 2002. *Managing Politics and Islam in Indonesia*. Oxon: RoutledgeCurzon.
- Robison, Richard; and Hadiz, Vedi R. 2004. *Reorganising Power in Indonesia: The Politics of Oligarchy in an Age of Markets*. Oxon: RoutledgeCurzon.
- Roy, Olivier. 1994. *The Failure of Political Islam*, translated by Carol Volk. Cambridge: Harvard University Press.
- . 2005. *Globalised Islam: The Search for a New Ummah*. New Delhi: Rupa.
- Sidel, John T. 2006. *Riots, Pogroms, Jihad: Religious Violence in Indonesia*. Ithaca and London: Cornell University Press.

雑誌

Sabili, no. 26, 2004. 07. 16. PKS Akhirnya: pp. 16-21.

見市：インドネシアのイスラム化と政治家

資料：1999年・2004年選出地方議員プロフィール

* 括弧内の数字は各党における割合。当該項目に記載のない場合は割合に含めていない。例えば性別の記載のない議員があり、男性比率は記載のある議員のみから算出している。したがって性別の表の合計数は全体の議員数を下回る。

政党別議員数

	闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党/ 福祉正義党	民主主義 者党	その他	合計
1999	1,493	1,351	476	467	282	104	50	—	999	5,222
2004	535	952	315	285	238	101	177	138	570	3,311

地域別議員数

	1999	2004
スマトラ	628	634
ジャワ	2,146	1,218
カリマンタン	815	150
スラウェシ	997	1,105
バリ, ヌサトゥンガラ, パプア	636	204
合計	5,222	3,311

性別

	闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党	民主主義 者党	その他	合計
1999年 男/女 (男性比率)	1,382/94 (93.6)	1,223/90 (93.1)	453/18 (96.1)	443/24 (94.9)	271/8 (97.1)	101/2 (98.1)	50/0 (100)	—	934/44 (95.5)	4,857/280 (94.5)
2004年	483/35 (93.2)	776/88 (89.8)	276/14 (95.2)	253/26 (90.7)	220/9 (96.1)	81/5 (94.2)	156/13 (92.3)	118/18 (86.8)	497/44 (91.9)	2,860/252 (91.9)

世代

	生年	闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党/ 福祉正義党	民主主 義者党	その他	合計
1999年	1930年代以前	86	189	28	31	29	7	1		59	430
	1940年代	258	556	102	87	64	33	1		331	1,432
	1950年代	422	310	151	150	65	18	2		316	1,434
	1960年代	574	225	154	162	105	35	32		189	1,476
	1970年代以降	123	25	23	30	15	8	12		36	272
	中央値(歳)*	40.7	51.2	42.9	42.7	42.4	43.7	33.2			44.9
2004年	1930年代以前	12	79	4	6	13	5	8	1	10	138
	1940年代	37	267	39	28	36	13	3	14	77	514
	1950年代	108	190	81	57	52	12	16	21	94	631
	1960年代	266	283	135	128	91	49	66	57	204	1,279
	1970年代以降	85	88	46	48	36	21	74	31	111	540
	中央値(歳)*	40.9	48.8	42.4	41.2	43.1	40.4	35.9	39.9		42.4

* パーセンタイルを使用して生年の中央値を算出、1999年および2004年1月時点の年齢の中央値を導き出した。

宗教

	宗教	闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党/ 福祉正義党	民主主 義者党	その他	合計
1999年	イスラム	922 (62.4)	1,095 (83.0)	467 (100)	453 (100)	272 (98.9)	103 (100)	50 (100)	—	661	4,023 (79.0)
	プロテスタント	190 (12.9)	133 (10.1)	0	0	0	0	0		138	461 (9.0)
	カトリック	113 (7.7)	52 (3.9)	0	0	1	0	0		93	259 (5.1)
	ヒンドゥー	248 (16.8)	39 (3.0)	0	0	1	0	0		55	343 (6.7)
	仏教	4 (0.3)	1 (0.1)	0	0	1	0	0		3	9 (0.2)
	合計										
2004年	イスラム	378 (76.7)	759 (90.2)	285 (100)	268 (97.8)	217 (98.2)	81 (100)	165 (100)	99 (77.3)	371	2,623 (88.1)
	プロテスタント	61 (12.4)	48 (5.7)	0	3 (11.0)	2	0	0	18 (14.1)	76	208 (7.0)
	カトリック	27 (5.5)	26 (3.1)	0	2 (0.7)	2	0	0	11 (8.6)	33	101 (3.4)
	ヒンドゥー	24 (4.9)	7 (0.8)	0	1 (0.4)	0	0	0	0	8	40 (1.3)
	仏教	3 (0.6)	1 (0.1)	0	0	0	0	0	0	1	5 (0.2)
	合計										

見市：インドネシアのイスラム化と政治家

イスラム団体

		闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党/ 福祉正義党	民主主 義者党	その他	合計
NU*	1999	18 (1.7)	42 (4.2)	115 (32.4)	315 (80.6)	3 (1.5)	2 (2.0)	1 (2.0)		18	514
	2004	4 (1.0)	22 (2.8)	45 (18.2)	144 (61.8)	3 (1.5)	4 (4.5)	6 (4.1)	5 (5.4)	21	254
Muhammadiyah*	1999	5 (0.5)	25 (2.5)	29 (8.7)	2 (0.5)	107 (53.5)	18 (17.6)	9 (18.4)		4	199
	2004	1 (0.2)	15 (1.9)	16 (6.5)	1 (0.4)	59 (28.8)	3 (3.4)	15 (10.3)	0	4	114
ICMI	1999	1	9	0	1	5	2	0		1	19
	2004	1	8	0	1	2	1	2	0	3	18
MUI	1999	0	10	4	6	7	0	0		0	27
	2004	0	4	4	4	4	2	5	0	2	25
BKPMI/ BKPRMI/DMI	1999	1	3	0	2	0	4	3		0	13
	2004	0	8	2	1	2	5	5	0	3	26
PII (インドネシア・ イスラム 生徒会)	1999	0	15 (1.5)	19 (7.7)	2	20 (10.0)	21 (20.6)	5 (10.2)		1	83
	2004	0	14 (1.8)	7 (2.8)	2	6 (2.9)	7 (7.9)	9 (6.2)	0	2	47
DDII	1999	0	0	0	0	1	5	0		0	6
	2004	0	0	1	0	1	0	3	0	0	5
Persis (イスラム 統一協会)	1999	0	1	0	0	0	2	0		0	3
	2004	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
HMI (イスラム 学生同盟)	1999	9 (0.8)	31 (3.1)	21 (5.9)	11 (2.8)	24 (12.0)	17 (16.7)	5 (10.2)		10	128
	2004	7 (1.7)	48 (6.2)	25 (10.1)	8 (3.4)	26 (12.7)	20 (22.5)	18 (12.4)	3 (3.3)	22	177
PMII	1999	3	11 (1.1)	13 (3.7)	65 (16.6)	0	0	1 (2.0)		4	97
	2004	2	7 (0.9)	13 (5.3)	37 (15.9)	2	1	5 (3.4)	2	7	76
KAMMI	1999	0	0	0	0	0	0	1		0	1
	2004	0	0	0	0	0	0	5	0	1	6

*NU とムハマディヤは青年，婦人，学生などの関係団体を含む。

社会団体

		闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党/ 福祉正義党	民主主 義者党	その他	合計
KNPI (インドネシア 全国青年委員会)	1999	42 (3.9)	177 (17.8)	27 (7.6)	22 (5.6)	12 (6.0)	7 (6.9)	1 (2.0)		21	309
	2004	18 (4.3)	178 (22.8)	20 (8.1)	17 (7.3)	20 (9.8)	7 (7.9)	4 (2.8)	3 (3.3)	40	307
AMPI (インドネシア 改革青年団)	1999	2	172 (17.3)	4	4	1	2	0		7	192
	2004	2	147 (18.9)	2	1	5	1	0	3	15	176
Karang Taruna (地域青年団)	1999	54 (5.0)	16 (1.6)	8 (2.3)	14 (3.6)	5 (2.5)	3 (2.9)	0		9	109
	2004	29 (7.0)	32 (4.1)	16 (6.5)	7 (3.0)	8 (3.9)	5 (5.6)	5 (3.4)	12 (13.0)	12	126
Pemuda Pancasila (パンチャシラ青年団)	1999	5	29	3	0	3	1	0		2	43
	2004	3	30	3	1	2	2	0	3	18	62
FKPPI (軍恩給者 子弟フォーラム)	1999	2	34	0	0	0	0	0		4	40
	2004	5	21	1	0	1	0	0	0	14	42
Korpri (インドネシア 公務員組合)	1999	10	75	2	3	8	3	0		11	112
	2004	5	28	0	1	3	0		0	12	49
Kosgoro (ゴトロンヨン 多目的編成部隊)	1999	2	44	0	0	1	0	0		7	54
	2004	1	34	0	0	0	1	0	0	13	49

経済団体

		闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党/ 福祉正義党	民主主 義者党	その他	合計
Gapensi (インドネシア 建設協会)	1999	9	20	1	6	5	0	0		5	46
	2004	9	33	0	3	4	4	0	0	13	66
Kadin/Kadinda (商工会議所/ 地方商工会議所)	1999	10	17	2	3	7	2	0		5	46
	2004	8	29	2	1	10	2	0	1	7	60

見市：インドネシアのイスラム化と政治家

教育

		闘争 民主党	ゴルカル 党	開発 統一党	民族 覚醒党	国民 信託党	月星党	正義党/ 福祉正義党	民主主 義者党	その他	合計
大学*	1999	446 (30.5)	482 (36.6)	131 (25.4)	160 (34.5)	134 (67)	52 (51.0)	27 (55.1)		273	1,705
	2004	128 (30.7)	290 (37.2)	83 (33.6)	107 (45.9)	89 (43.4)	33 (37.1)	72 (49.7)	34 (37.0)	190	1,026
国立イスラム 大学**	1999	2 (0.1)	35 (2.7)	35 (7.6)	75 (16.2)	13 (4.8)	6 (7.5)	3 (8.1)		14	183
	2004	2 (0.4)	13 (1.6)	22 (7.8)	31 (11.3)	10 (4.6)	5 (5.9)	9 (5.4)	0	14	106
イスラム 高校***	1999	11	20	45	106	10	6	1		10	209
	2004	4	20	36	53	11	4	12	5	6	151

* 大学はディプロマコースを除いたが、「大学 (universitas, perguruan tinggi)」のみの記述の場合はこれを含めた。

** 国立イスラム大学は全国の IAIN (国立イスラム学院) と STAIN (国立イスラム高等学院) の総数。学部名のみ記載は私学と区別がつかないので除外した。

*** イスラム高校 (Aliyah) はデータに Aliyah, MAN (国立イスラム高校), MA (私立のイスラム高校) の記述があったものに限定した。Muallimin や Ma'had など他種のイスラム高校やプサントレン名のみの記述は含めていない。